

寄せられた意見

No. 205

受付日	H18. 12. 26	年齢	50歳	居住 市町村名	名寄市
件名	天塩川の整備計画について				

天塩川流域委員会御中

平成18年12月26日
名寄市 [] (50歳)

天塩川の整備計画について

12月26日付の新聞で流域委員会が終わった、という記事を見て一安心をした。随分長いこと委員会のことが新聞に掲載されていたので、早く終わらないかと心待ちにしていた。この地で生活していかなければならない者の思いを述べさせていたいただきたい。

記憶もあまり定かでは無くなっているが、子供の頃は随分水害で苦労していた。雨が降ると父や近隣の人達は必ず川を見に行き、水を心配し、低い土地の浸水を防ぐ相談をしていた。最近では堤防も近年の異常気象を見ていると、本当に安心しきれないか疑問に思うようになってきた。今年など春と秋の2回も大きな洪水があった。幸い大きな被害には遭わなかったが、少し時期がずれていたらどうなっていたか。水害の後などは砂利や木が畑一面に散乱し、とても農地という様相ではなかつた光景を覚えている。春先ならやり直しもできるが、収穫間近の時などは実に悲惨なものであった。

委員会を傍聴して感じたことは、地域の声を無視するような委員が少数でもいたことは極めて残念であった。大半の委員は地域のことを考えていたが、一方で議論がまだ不足などと、委員会では延々と発言する機会は異機にも思えた。生活者の視点を考えないのは果ればかりであった。異常降雨の時には畑地にも洪水が入り乱暴な考えを持って業者の心を逆なですせる発言もあり、学識者もかなり乱暴な考えを持っているのだと考えさせられた。サクラワスは大切かもしれないが、そこに住む人間の生活を優先することが何故理解出来ないのだろうか。また、魚道の機能を疑問視する意見もあつたが、果たしてそうだろうか。議論の安全を確保するのが現時点での最善策ではないだろうか。余裕高の議論は難しかったが、[]先生の説明を聞いて納得できた。ところが、これを理解したくないような発言を聞き、憤りさえ覚えた。自然環境の大切さは、他人様から言われなくても認識している。地域の生活よりも、天塩川ならどこにでも棲んでいる、カワシメジユガイ等に固執する姿勢は、とても正當とは思えなかつた。

我々にはこの地で暮らし、未来永劫その生活を続けていかなければならない。早急に川やダムの工事が行われ、安心して暮らしが出来ることを願っている。

※ []箇所は、個人情報等に該当するため黒塗りしています